

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	Transfusion 2006; 46: 2036-2037	ウエストナイルウイルス(WNV)が輸血感染するとの認識により、米国とカナダではウイルスRNAIに関する供血者の検査が迅速に導入された。最近の分析ではこの検査は費用対効果が高いと指摘されている。Custerらは、ミニプール検査と一部個別検査を組み合わせた通年の検査は、費用対効果は低いが血液安全のために最善の選択であるとしている。一方Korvesらは、検査の削減を提唱している。検査の効率性を問う必要はあるが、WNVスクリーニングを行う他の方法がないかを検討することも重要である。
												ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20061214.3510	2006年、米国におけるウエストナイルウイルス感染のヒト症例は43州から4052例が報告され、うち1396例で脳炎や髄膜炎を発症、死亡例は146例だった。また、ウマ、トリ、蚊からのウイルス検出が報告されている。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(4): 76-79	ID-NATを用いた強化スクリーニング開始以降に、初めて西ナイルウイルス輸血感染症例が報告された。2006年に免疫不全患者2例が、感染ドナー1例(献血時のMP-NATの結果は陰性)由来の血液製品を投与された後、西ナイル神経根性疾患を発症した。今回の例はID-NATは実施されおらず、ID-NATトリガーを促進することが重要である。
												A型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 1398-1405	A型肝炎ウイルス(HAV)感染患者の血液および糞便中へのウイルス排泄期間および排泄量と、アリアミアミトランスフェラーゼ(ALT)、疾患重症度、HAV遺伝子型との関連を調べた。27例の急性HAV患者でHAVは発症後81日間(中央値)便中に排泄され、半数で36日目でも多量なウイルスの排泄が続いた。ウイルス血症は検出されたが、定量できなかった(中央値42日間)。疾患発症後10日間は、ALT値が高いほど血中ウイルス量が高かった。遺伝子型1aと1bの患者で、HAV排泄および黄疸の期間に有意差はなかった。